

5. 経営基盤の強化

01 上下水道事業

▶ 現状と課題

〈経営状況の現状及び見通し〉

柏市の人口は令和17年度までは増加が続き、その後は減少へ転じる見通しです。水道・下水道の有収水量も人口動向と同様に、当面は増加した後、将来的には減少すると考えられます。

現状では、上下水道事業の統合による人員配置の最適化、部署間連携の強化、包括委託の拡大、企業債の抑制、施設更新計画の策定などにより、経営の効率化が進み、比較的良好な状況を維持しています。

しかし、今後は水需要の減少に伴う収入の縮小、物価や電力費の高騰、老朽施設の更新費用の増大など、経営環境は一層厳しくなる見通しです。

さらに、今後増加する更新・改築工事に対し、限られた職員数で全てを管理することは難しく、工事量が制約を受ける懸念があります。このため、少ない人員でより多くの事業を管理できる仕組みの導入が必要となります。

近年は、DX技術が急速に進展しており、上下水道分野でも活用可能な技術が増えています。柏市では、上下水道管路情報の電子管理等の電子化は進めているものの、上水道におけるメンテナンス関連のDXは未導入です。

今後は、施設の老朽化や、ウォーターPPP導入に伴うデータ連携の必要性を踏まえ、効果的なDX技術の選定・導入が急務です。特に、国が令和9年度までの導入を求める漏水調査等のメンテナンス関連のDX技術が必要です。また、県が令和10年度までに求めるアセットマネジメント4Dへの対応に向けて、精度の高い台帳整備が課題となっています。

〈組織体制〉

柏市の上下水道事業は若年層と高齢層が多く、中堅層がやや少ない構成となっています。中堅層が不足すると、若手への技術継承が十分に行えないおそれがあります。また、職員は他部署への異動があるため、上下水道の専門知識を深められる期間は限られています。

今後、ウォーターPPPの導入により委託業務が拡大すると、発注者側には委託内容を適切に管理・評価する能力が求められます。

このため、限られた人員でも必要な専門性を確保できるよう、研修制度の充実や効果的な人材育成が重要です。

▶ 目指す将来像

○ 経営、事業運営の効率化に努め、将来的にも安定した事業運営を目指します。

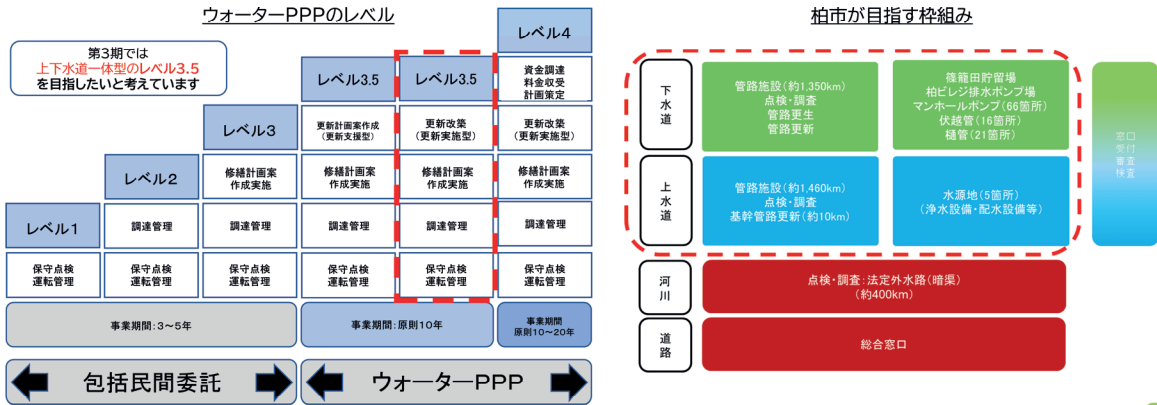
▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
官民連携の拡大(ウォーターPPPの導入)	検討		ウォーターPPP導入							
DX推進・新技術の活用	DX導入検討		DX導入							
技術力の確保	研修計画の作成・研修の実施									

① 官民連携の拡大 (ウォーターPPPの導入)

老朽化資産の更新・改築が今後大幅に増加することが見込まれる中、限られた職員数で効率的に事業を進めるため、官民連携の拡大を図ります。

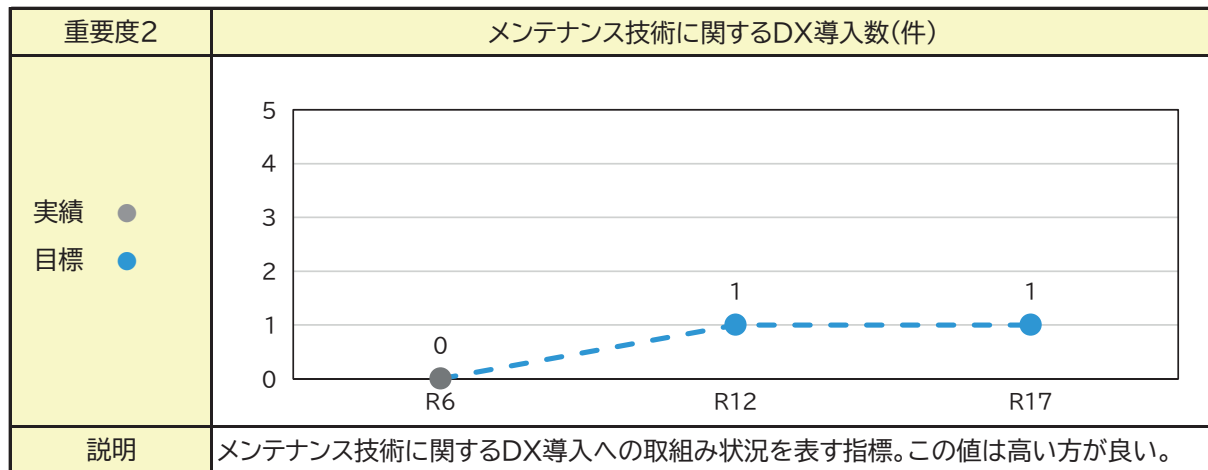
特に、事業量が急増する管路施設の更新、改築については、令和9年度にウォーター PPP の導入を予定しています。民間企業の専門技術を活用し、調査・計画・設計・施工を一体的に委託することで、効率的な事業の推進が期待できます。



② DX推進・新技術の活用

国が掲げる令和9年度までのメンテナンス関連DX技術の導入目標や、千葉県が示す令和10年度までのアセットマネジメント4D実施率100%の達成に向け、必要なDX技術を順次導入します。

指標	5経営基盤の強化	(1)上下水道事業
----	----------	-----------



③ 技術力の確保

限られた期間で職員の専門性を高め、維持していくため、研修方法や研修内容の見直しを進めます。

また、部署によって求められる技術が異なることから、必要な研修内容を整理し、体系的な研修計画を作成することで、各部署で求められる人材の育成を計画的に進めます。

▶ 現状と課題

〈財政計画〉

今後、水需要はピークを迎えたのち減少に転じる見通しであり、それに伴い料金収入も減少が見込まれます。一方で、物価上昇や電力費の高騰などにより事業支出は増加する見込みです。現時点では料金収入で事業費を賄っていますが、将来的な収支悪化に留意が必要です。

水道事業の経営状況を示す料金回収率は100%を上回り堅調に推移しています。しかし、本計画と並行して行ったアセットマネジメントの検討では、施設・管路の老朽化に伴い更新需要の増加が見込まれており、今後は更新に必要な財源確保が課題となります。

また、企業債の借入れや物価上昇等の影響により料金回収率が低下することが予想されるため、増加する更新費用や経費を安定して賄える収益確保が不可欠です。加えて、災害時の収入減少や支払いに備えるため、一定の内部留保資金の確保も必要となります。

〈広域化〉

千葉県では令和5年3月に水道広域化推進プランが策定され、柏市は北千葉広域水道企業団の受水団体に構成される北千葉ブロックに位置付けられています。柏市も年1回以上開催される北千葉ブロック勉強会に参画し、情報共有と検討を進めています。

▶ 目指す将来像

- 健全な財政運営を継続します。
- 広域化により業務の効率化を図ります。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
財政計画の適正管理	財政計画の見直し・管理									
						計画見直し				
広域化への取組	広域化の取組による業務効率化の検討									

① 財政計画の適正管理

財政計画を定期的に見直し、必要に応じて適正な料金水準への改定について検討することで、料金回収率100%以上を維持し、健全な財政運営を図ります。

指標	5経営基盤の強化	(2)水道事業
----	----------	---------

重要度1	料金回収率(%)												
実績 ● 目標 ●	最終目標: 100 <table border="1"> <caption>料金回収率実績データ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td> <td>125.4</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R17</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	R6	125.4	100.0	R12	100.0	100.0	R17	100.0	100.0
年度	実績 (%)	目標 (%)											
R6	125.4	100.0											
R12	100.0	100.0											
R17	100.0	100.0											
算定式	$(\text{供給単価} / \text{給水原価}) \times 100$												
説明	経営状況の健全性を表す指標。この値は高い方が良い。												

重要度2	経常収支比率(%)												
実績 ● 目標 ●	最終目標: 100 <table border="1"> <caption>経常収支比率実績データ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td> <td>123.6</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R17</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	R6	123.6	100.0	R12	100.0	100.0	R17	100.0	100.0
年度	実績 (%)	目標 (%)											
R6	123.6	100.0											
R12	100.0	100.0											
R17	100.0	100.0											
算定式	$(\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用}) \times 100$												
説明	収益性を表す指標。この値は高い方が良い。												

② 広域化への取組

北千葉ブロック勉強会への参加を継続し、広域連携の導入による業務効率化について、引き続き検討します。

03 下水道事業

▶ 現状と課題

〈下水道事業の経営状況〉

下水道処理人口及び使用料収入は増加傾向にあるものの、その伸びは徐々に鈍化しており、今後大幅な収入の増加は見込みにくい状況です。一方、物価や電力費の高騰に加え、県へ支払う流域下水道維持管理費負担金の値上げが確定しているほか、管路・ポンプ場・貯留施設などの更新や耐震化に必要な費用も今後増加する見通しです。これらを踏まえると、下水道事業の経営状況は今後厳しさを増すことが想定されます。

現在の経営指標である経常収支比率は100%を上回り堅調といえますが、基準外繰入金を繰り入れている状況であり、独立採算制の観点からは繰入金の低減が求められます。繰入金を縮減していく場合、経常収支比率が低下するため、収入増加や経費の削減などの経営改善への取り組みが必要です。

また、今後増加が見込まれる施設更新や耐震化の費用、災害時に収入が減少した場合の支払いに備え、一定の内部留保資金を確保しておくことも重要です。

〈財政計画の策定状況〉

下水道事業では財政計画を定期的に見直し、その内容を上下水道事業運営審議会へ報告しています。近年は流域下水道維持管理費負担金の値上げにより、経費負担が大きくなることが見込まれています。今後も追加の値上げの可能性があることや、物価・電力費の上昇など、経費増加のリスクが続くと想定されます。

このため、財政計画の継続的な見直しを行い、内部留保資金の不足や経費回収率の低下の兆候を早期に把握し、必要に応じて適正な使用料水準への改定を行う必要があります。

▶ 目指す将来像

○将来にわたって安定的に下水道サービスを継続できる経営基盤を維持します。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
財政計画の適正管理	財政計画の見直し・管理									
				使用料改定検討	使用料改定					

○財政計画の適正管理

今後、使用料収入の大幅な増加は期待できない一方で、経費は流域下水道維持管理費負担金の値上げや物価・電力費の高騰により増加する見通しです。健全な経営を維持するため、財政計画を定期的に見直し、適正な使用料水準への改定を行います。

使用料検討にあたっては、経費を使用料収入で賄うだけでなく、施設更新や災害対応に備える内部留保資金の確保という観点も踏まえる必要があります。

指標	5経営基盤の強化	(3)下水道事業
----	----------	----------

重要度1	経費回収率(%)								
実績 ● 目標 ●	最終目標: 100 <table border="1"> <caption>経費回収率(%)実績値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td> <td>100.3</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R17</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	R6	100.3	R12	100.0	R17	100.0
年度	実績値								
R6	100.3								
R12	100.0								
R17	100.0								
算定式	$(\text{使用料収入} / \text{汚水処理費}) \times 100$								
説明	経営状況の健全性を表す指標。この値は高い方が良い。								

重要度2	経常収支比率(%)								
実績 ● 目標 ●	最終目標: 100 <table border="1"> <caption>経常収支比率(%)実績値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td> <td>105.8</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R17</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	R6	105.8	R12	100.0	R17	100.0
年度	実績値								
R6	105.8								
R12	100.0								
R17	100.0								
算定式	$(\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用}) \times 100$								
説明	収益性を表す指標。この値は高い方が良い。								

6. 利用者サービス・広報の充実

01 上下水道事業

▶ 現状と課題

〈利用者サービス〉

柏市では、幅広い年代やライフスタイルに合わせて水道料金・下水道使用料の支払いを負担なくできるよう、口座振替、窓口支払い、コンビニエンスストアでの支払い、スマートフォンアプリ決済など、複数の支払い方法を導入しています。

新しい支払い方法の導入は利便性向上につながりますが、導入には費用がかかり、その費用は最終的に料金へ影響する可能性があります。このため、支払い方法の拡充を検討する際には、費用対効果や利用者の意見を踏まえ、慎重に判断することが求められます。

〈広報活動〉

上下水道事業への理解を深めていただくため、ホームページや広報紙、SNS を通じて情報を発信しています。また、浄水場見学会の実施やマンホールカードの配布、デザインマンホールの導入、各種イベントへの出展など、身近に上下水道事業を知っていただく取り組みも行っています。

情報提供の手段は年々多様化しているため、新たな媒体の活用を検討しつつ、現在行っている広報活動を継続し、安定的に情報を届けることが重要です。



≪浄水場見学会の様子≫

全国初！ベルサイユのばらデザインマンホール蓋

令和6年10月16日：定例記者会見にてお披露目／令和6年11月11日：設置



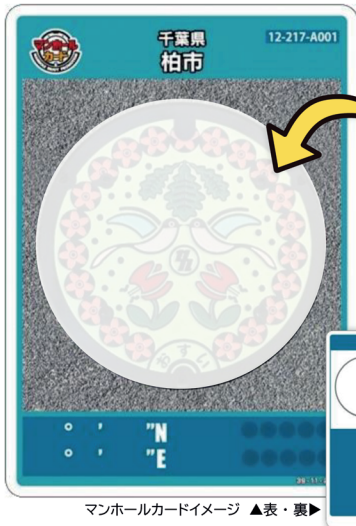
A.オスカルとマリー・アントワネット
【場所：柏高島屋前】



B.オスカル
【場所：柏神社前】



C.マリー・アントワネット
【場所：三協フロンテア柏スタジアム隣り
口立台公園前】



マンホールカードイメージ ▲表・裏▶



A.「オスカルとマリー・アントワネット」デザイン のマンホールカードを作成・配布!!

- 令和7年4月頃から配布予定
- 配布場所等の詳細は
今後ホームページ等にてお知らせ

※1人につき1枚限定、事前予約や郵送での配布は不可

どんなカードになるのか、お楽しみに！



柏市下水道キャラクター
蓮子(れんこ)ちゃん

《配布時に作成された資料》

▶ 目指す将来像

- 利用者サービスの向上に努め、より利用しやすい上下水道事業を実現します。
- 情報発信を充実し、より多くの利用者にわかりやすく情報を届けます。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
支払方法の拡充	新規支払方法の導入					検討・実施				
広報活動	継続実施									

① 支払方法の拡充

多様なライフスタイルに対応するため、クレジットカード払いなど新たな支払い方法の導入について、費用対効果や利用者の意見を踏まえながら検討を進めます。

② 広報活動

ホームページや SNS の更新、広報紙の発行、イベントへの出展など、現在の広報活動を継続し、更なる情報発信の充実を図ります。

7. 省エネルギー・創エネルギーの推進

01 上下水道事業

▶ 現状と課題

〈上下水道局庁舎における環境負荷軽減〉

上下水道局庁舎では、屋上及び壁面に太陽光発電設備を設置し、庁舎内で使用する電力の一部を自ら生み出すことで、環境負荷の低減に取り組んでいます。太陽光発電は、停電時に業務を継続できるという利点もあります。

また、日常業務でもこまめな消灯や裏紙の活用など、省エネに努めています。

なお、上下水道局で使用する公用車については、環境負荷軽減のため電動車の導入を検討していますが、電動車は停電時に十分に稼働できない課題があるため、従来のガソリン車も一定数維持する必要があります。

▶ 目指す将来像

○省エネ・創エネの取組を推進し、脱炭素社会の実現に貢献します。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
省エネルギーの導入と創エネルギーの活用	太陽光発電の活用の継続					▶				
	▶ 電動車配備数・方式、充電ポート数検討									
	電動車配備・充電ポート設置					(完了) ▶				

○省エネルギーの導入と創エネルギーの活用

太陽光発電を安定して活用するため、設備の適切な維持管理を継続します。

電動車とガソリン車それぞれの特性や停電時の対応を踏まえ、両者のバランスを考慮した車両配備を進めます。

指標	7省エネルギー・創エネルギーの推進	(1)上下水道事業
----	-------------------	-----------

重要度2	電動車導入比率(%)															
実績 ● 目標 ●	最終目標: 100 <table border="1"> <caption>電動車導入比率(%)の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td> <td>16.7</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>66.7</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>R16</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R17</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	R6	16.7	16.7	R12	66.7	66.7	R16	100	100	R17	100	100
年度	実績 (%)	目標 (%)														
R6	16.7	16.7														
R12	66.7	66.7														
R16	100	100														
R17	100	100														
算定式	$(\text{電動車} \times \text{車両数} / \text{公用車} \times \text{総数}) \times 100$															
説明	省エネルギー対策への取組み状況を表す指標。この値は高い方が良い。 ※電動車はEV, HEV, PHEVの3種類を想定 ※公用車は給水車等の特殊車両を除いたもの															

▶ 現状と課題

〈省エネルギーの取組〉

柏市水道事業では、使用電力の多くを占める水源地の設備機器の更新にあわせ、省エネ法で定められたトツプランナー機器（高効率機器）の導入を進めており、省エネに配慮した施設・設備の構築を図っています。

また、省エネ技術は年々進歩しているため、今後も更新の際には、より省エネ性能の高い機器を選定し導入していくことが必要です。

〈建設副産物の再資源化の取組〉

施設の更新や新設工事では、アスファルト、コンクリート、土砂などの建設副産物が発生します。

柏市では、これらをすべて再資源化しており、環境負荷の低減に寄与しています。今後も引き続き、建設副産物の再資源化に取り組むことが重要です。

▶ 目指す将来像

○省エネ・創エネの取組を推進し、脱炭素社会の実現に寄与します。

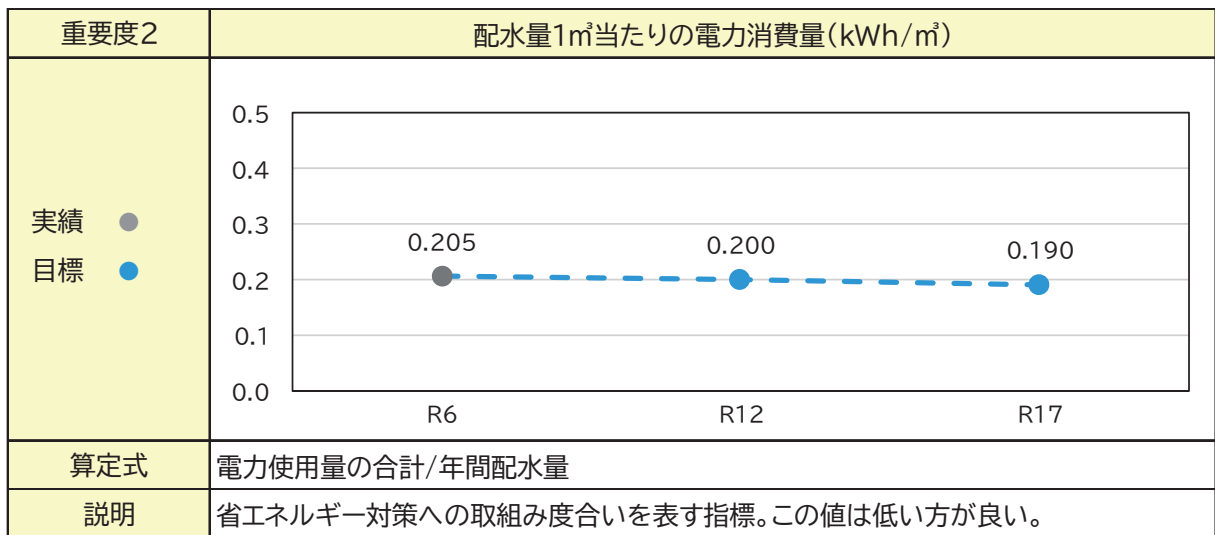
▶具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
省エネ機器導入	更新時の導入を継続									
建設副産物の再資源化	継続実施									

① 省エネ機器導入

ポンプをはじめとする設備の更新や新設に際し、省エネ基準を満たす機器の導入を徹底し、消費電力の削減と環境負荷の低減を図ります。

指標	7省エネルギー・創エネルギーの推進	(2)水道事業
----	-------------------	---------



② 建設副産物の再資源化

工事で発生する建設副産物の再資源化を継続し、環境負荷の低減に努めるとともに、建設副産物の再資源化率100%の維持を目指します。

▶ 現状と課題

〈省エネの状況〉

柏市は平地に位置しているため、下水道において自然流下だけでは排水できない場所が多く、各地にポンプ設備を設置する必要があります。ポンプは多くの電力を消費するため、更新や新設の際には、省エネ基準を満たす機器を選定し、環境負荷の低減に努めています。

今後も、省エネに配慮した事業運営を継続するため、最新の省エネ機器の情報収集に努めるとともに、設備更新や新設の際は省エネ機器の導入を図ることが重要です。

〈創エネの状況〉

下水は、家庭などで使用された温水に由来する熱エネルギーを保有しており、通常であれば廃棄される、この熱エネルギーを有効活用することで、環境負荷の低減が期待できます。

下水熱利用の導入には、事例の収集や柏市で適用可能な技術の選定、費用対効果の検証など、段階的な検討が必要となります。

〈建設副産物の再資源化の状況〉

下水道施設の更新・新設・撤去工事では、土、アスファルト、コンクリートなどの建設副産物が発生します。これらを適切に処理し再資源化することで、環境負荷の低減に寄与しています。

柏市ではこれまでも再資源化に取り組み、概ね 100%の建設副産物の再資源化を維持しています。

▶ 目指す将来像

○省エネ・創エネの取組を推進し、脱炭素社会の実現に寄与します。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
省エネ機器導入	更新時の導入を継続									
下水熱利用の事例調査・研究	事例調査・研究					導入検討、導入				
建設副産物の再資源化	継続実施									

① 省エネ機器導入

ポンプ設備などの更新や新設時に、省エネ基準を満たす機器の導入を徹底し、電力消費の削減と環境負荷の低減を図ります。

② 下水熱利用の事例調査・研究

他事業体や民間企業の事例を調査し、下水量や温度、利用可能な場所などを踏まえて柏市での導入可能性を研究します。適用可能と判断されれば、費用対効果や環境面の影響を精査し、導入に向けた検討を進めます。

③ 建設副産物の再資源化

工事で発生する建設副産物の再資源化を継続し、環境負荷の低減に努めるとともに、建設副産物の再資源化率100%の維持を目指します。

8. 水質の適正管理

01 水道事業

▶ 現状と課題

〈水安全計画・水質監視〉

柏市水道事業では、平成 29 年度に厚生労働省の支援ツールを用いて水安全計画を策定し、毎年水質検査計画に基づいて水質管理を実施しています。

近年、PFOS 及び PFOA が全国的に検出されていることから、水道水質基準が令和8年4月に改正されます。柏市では、これらの物質について水源水質の検査を行い、水質に問題がないことを確認したうえで、その結果を利用者へ公表しています。

また、小規模貯水槽水道*については注意喚起を実施しています。

▶ 目指す将来像

○適正な水質管理を徹底し、安全な水道水の供給を確実にします。

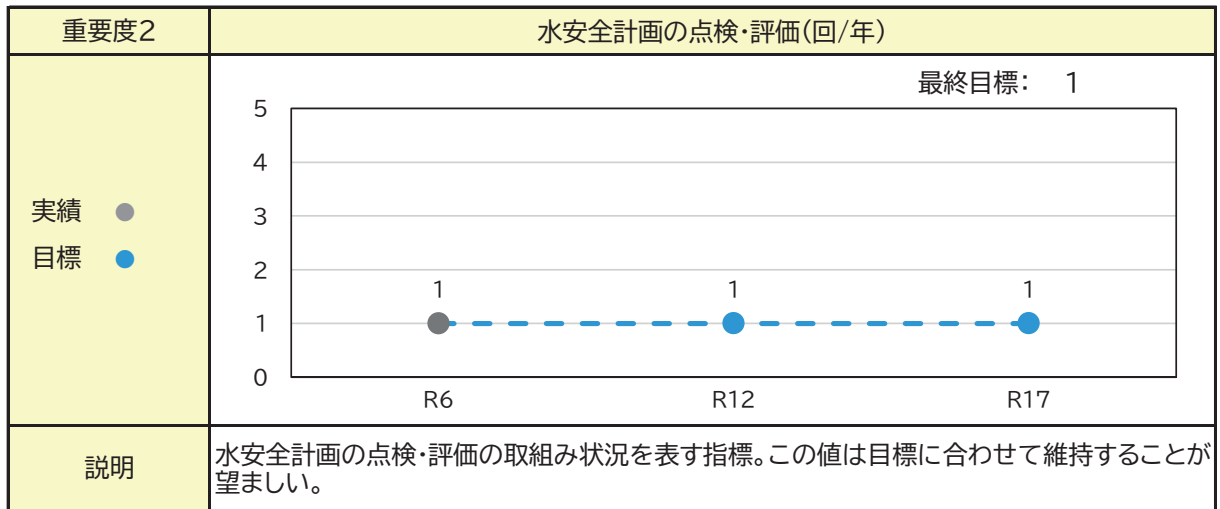
▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
水安全計画の運用	水安全計画の運用・必要に応じて見直し									
水質監視の維持	水質監視の継続									
配水管の洗浄作業	直営で洗浄	ウォーターPPPによる配水管洗浄の実施								
鉛製給水管の解消	鉛製給水管の更新を継続									
小規模貯水槽水道の適正管理	2年間隔での注意喚起の継続									

① 水安全計画の運用

策定した水安全計画を適切に運用し、必要に応じて計画の見直しを行います。

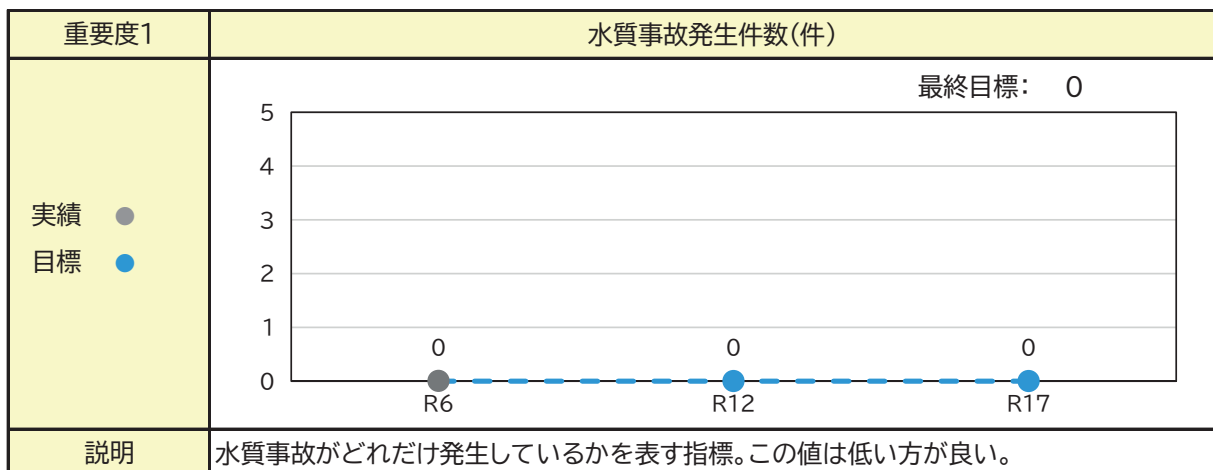
指標	8水質の適正管理	(1)水道事業
----	----------	---------



② 水質監視の維持

安全な水質確保のため、水質監視体制を維持します。また、水質検査及び管理を担う職員の人材育成を進めます。

指標	8水質の適正管理	(1)水道事業
----	----------	---------



③ 配水管の洗浄作業

配水管洗浄計画に基づき、洗浄作業を継続します。これまで直営で実施してきましたが、令和9年度以降に導入するウォーター PPP の活用を予定しています。

④ 鉛製給水管の解消

老朽配水管の更新に併せて、漏水等の原因となる鉛製給水管の更新を進め、順次解消します。

⑤ 小規模貯水槽水道の適正管理

貯水槽の管理不備による衛生リスクを防ぐため、注意喚起を継続します。

9. 適切な水源保全の推進

01 水道事業

▶ 現状と課題

〈自己水源の保全〉

柏市水道事業では、水源を北千葉広域水道企業団からの受水と、自己水源である地下水により確保しています。地下水は長期間取水を継続することで、取水能力の低下や水質の悪化が生じるおそれがあり、これらの兆候を早期に把握し、適切に対処することが重要です。

そのためには、深井戸内部の状況を把握するための内部調査の実施や、水位・水質など運転データの継続的な監視による異常検知が重要となります。

現在、水源井戸については年間5本程度の内部調査を実施していますが、内部状況や運用上の異常が確認された場合には、修繕や更新（掘替え）を行う必要があります。

▶ 目指す将来像

○取水量の適正管理や地下水位の監視により、地下水を安定して取水できる状態を維持します。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
水源井戸の維持管理	維持管理の実施、必要に応じて修繕									
適正揚水量の管理	適正揚水量の把握・管理									

① 水源井戸の維持管理

定期的に水源井戸の内部調査を実施し、異常の早期発見と適切な修繕を実施します。水源井戸の運転データを監視し、異常が認められる場合には必要な修繕を検討します。

水源地施設・設備更新計画に基づき、計画的な修繕・維持管理を進めます。

② 適正揚水量の管理

各水源井戸の運転データを分析し、水位や水質に影響を及ぼさない適正な揚水量を把握します。把握した適正揚水量の範囲内で計画的な取水を行い、水源井戸の能力の維持に努めます。

10. 合流区域の解消

01 下水道事業

▶ 現状と課題

〈合流式下水道〉

柏市のほとんどの地域は分流式下水道で整備されており、放流水域への汚濁負荷量は比較的抑えられています。一方で、柏駅周辺は合流式下水道となっており、高強度の降雨時には、計画汚水量を超過した合流水は河川へ直接排水されるため、下流水域の汚濁負荷量の増加が懸念されます。

このため、合流式下水道区域では、分流化の推進や、雨天時に下水を貯留する施設の適切な維持管理などが、公共水域の汚濁負荷量を低減するための重要な対策となります。

現在、合流区域における分流汚水幹線の整備は概ね完了していますが、市街地が既に形成されている区域で面的に分流へ切り替えることは容易ではありません。そこで、合流区域へ流入する雨水量を減らすため、河川へ直接放流するためのバイパス管の整備などを進めてきました。

▶ 目指す将来像

○合流区域を解消し、公共水域の水質改善に寄与します。

▶ 具体的な取組

取組	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
合流区域の分流化	分流化の検討・推進									

○合流区域の分流化

分流化が完了していない地域については、引き続き分流化を進めます。分流化工事が行われるのは市街地がすでに形成されている区域であるため、利用者や周辺環境への影響を最小限に抑えられるよう、実施方針を十分に検討したうえで事業を推進します。